

熱帯東南アジア自然および 自然資源保護会議

本 岡 武

1

International Union for Conservation of Nature and Natural Resources (IUCN) は、1948年に設立され、本部をスイスの Morges におく。これは、全世界にわたる自然および自然資源保護のための、政府および民間団体の連絡調整、自然および自然資源保護の活動の促進、ならびに、そのための情報の入手交換を目的とする。

これが、創立以来18年目に、はじめて熱帯東南アジアを対象としての会議を、11月29日から12月4日まで、タイ国家研究会議(National Research Council)・UNESCO・FAOの共催のもとに、バンコクのカセツァート大学に開いた。

agricultural economist であるわたくしは自然資源保護とは関係がないわけでないが、開会の1週間ばかりまえ、タイ組織委員会から、とつぜん招請状がとどいたので、少しとまどった。あとで、この会議の議

長として一切の責任をみごとにはたされた Harold J. Coolidge 博士 (Chairman, IUCN International Commission on National Parks; Chairman, Standing Committee on Pacific Conservation of the Pacific Science Association; Executive Director of the Pacific Science Board, National Academy of Science, National Research Council, したがって、1966年夏に東京で開催される太平洋学術会議のアメリカ側のリーダー) に伺って、はじめて、この間の事情がわかった。というのは、博士がこんどバンコクに赴く途次、京都の東南アジア研究センターを訪問、岩村所長と会談された。わがセンターの東南アジア研究計画を知り、その代表の意味で、わたくしを招請するよう、タイ組織委員会に京都から打電されたとのことだった。わたくしは、わがバンコク連絡事務所は、できるだけ、あらゆる専門分野での東南アジア研究についての情報を入手し、また東南アジア研究者と接触を保つべきだと確信しているので、喜んで会議に参加することにした。もちろん、自分の専門とする以外の部門の国際会議に出席しての報告なので、うまくフォローできなかったのは仕方がないが、ここにとりあえず、会議の模様をとりまとめ、とくに東南アジア研究計画のうちの生物学の関係者の参考に供したい。

2

この会議には、タイ・マレーシア (マラヤ・サバ・

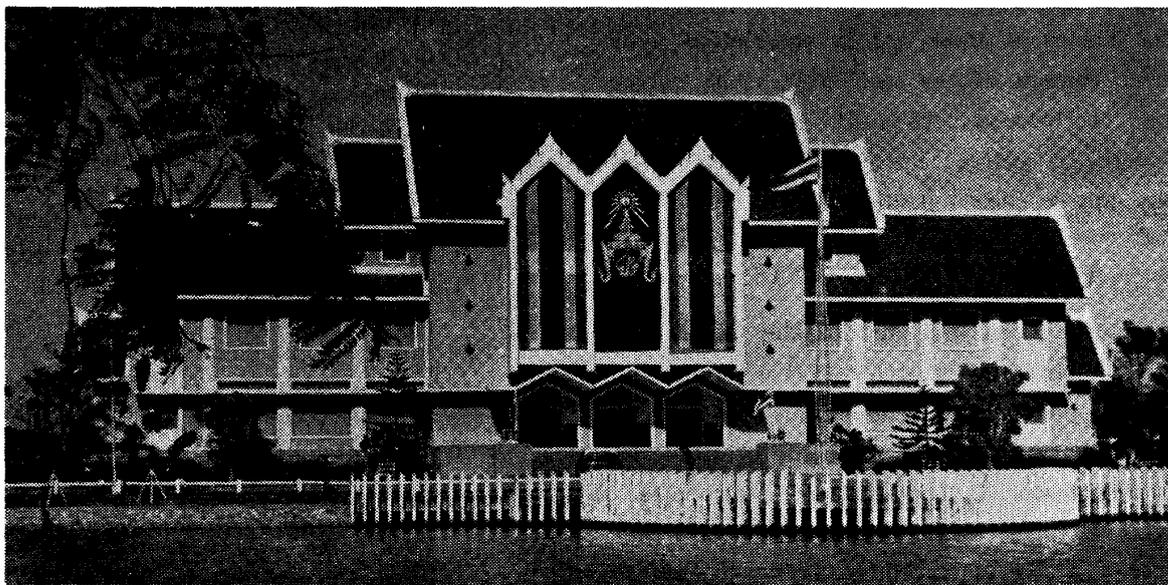


写真1 開会式の行なわれたカセツァート大学本館

サラワク)・シンガポール・ブルネイ・インドネシア・フィリピン・南ベトナム・ラオスの東南アジア諸国(北ベトナム・カンボジア・ビルマは欠席)をはじめ、ホンコン・中国(台湾)・朝鮮・日本・インドのアジア諸国、イギリス・イタリー・フランス・ベルギー・ドイツ・オランダ・スイス・アメリカ・ローデシア・オーストラリアなど、23カ国から、約150人が参加した。

これら諸国の国旗のはためくカセツアート大学講堂で、第1日の11月29日(月)、多数のタイ側からの傍聴者の出席のもとに、開会式が行なわれた。乾燥した北西風が講堂に吹きこんで、まことに気持のよい朝だった。

開会冒頭、議長 Coolidge 博士が開会を宣し、IUCN 会長・パリ大学医学部 F. Bouliere 教授が名誉議長に推薦される。ついで、まず、第2次世界戦争以来、わが国でなじみの深い副首相 Wan Waithyakon 殿下が Thanom 首相代理として、タイ国政府の歓迎の辞を述べられる。Wan 殿下を見るのは、わたくしには、はじめてだった。共催者 UNESCO を代表して G. Betancur-Mejia 事務総長補(教育担当)、FAO を代表して H. N. Mukerjee アジア極東地域事務局長代理、タイ組織委員会と国家研究会を代表して Pradisth Cheosakul 国家研究会議副事務総長(自然科学担当)の祝辞。そのあと、IUCN 事務局側として、IUCN 事務局長 Hugh Elliott 卿が答辞を述べた。

ここで、Wan 殿下が退席されて、Coolidge 博士司会のもとに、会議のテーマ“Conservation Spotlight on South East Asia”について、つぎの諸氏による基調演説が行なわれた。

- Mr. Thane Riney, Wildlife and National Parks Officer, FAO, Rome.
- Mr. Wayne A. Mills, Acting Director, UNESCO Regional Centre for Science and Technology for Southeast Asia.
- Dr. S. Dillon Ripley, President, International Council for Bird Preservation; Secretary,

Smithsonian Institution; Member, IUCN Executive Board.

Cmdr. Peter Scott, Vice President, International Wildlife Fund; Chairman, Survival Service Commission of the IUCN.

Dr. Edward Graham, Deputy Convener, Conservation Section of the International Biological Programme; Chairman, Ecology Commission of the IUCN.

Dr. Lee M. Talbot, Director, South East Asia Project of the IUCN; Member, Conservation Section Committee of the International Biological Programme.

この基調演説をとおして強調されたのは、従来、自然保護についてアフリカに IUCN の主力がそそがれていた。しかし、1963年の Coolidge 博士の東南アジア訪問を契機として、IUCN が東南アジアに強い関心をもつにいたったこと、また従来東南アジアでこの問題があまり重視されなかったが、最近関心がたかまり、



写真2 開会式の正面壇上、左より、1人おいて、IUCN 会長 Bouliere 教授、タイ国副首相 Wan 殿下、会議議長 Coolidge 博士

ここに各国政府に一段の強い刺激を与えたいとのことである。

つづいて、会場を同じくカセツアート大学構内にあるタイ米穀局稲作保護研究ビルに移し、Technical Session がはじまる。

この Technical Session のやり方は、なかなか、おもしろく参考になった。というのは、正面の壇上に Chairman, Honorary Vice Chairman (1~3人), Discussion Leader, Summarizer, Recorder (1~2

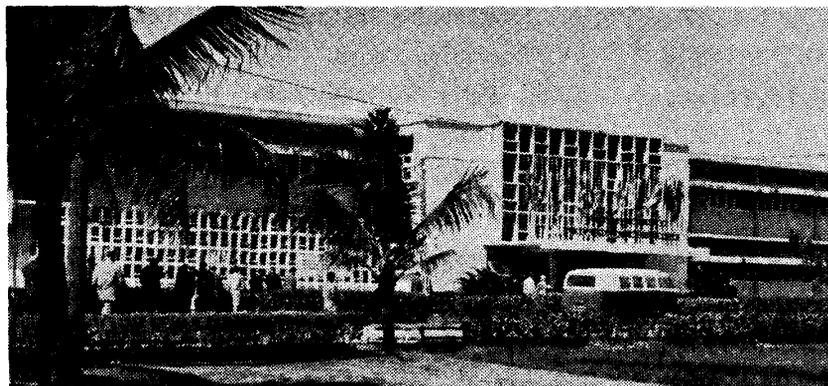


写真3 会議場にあてられたカセツアート大学構内の
タイ米穀局 Rice Protection Laboratory

人)がずらりとならび、両翼の壇上に participant のうちの報告者が8~12人ぐらい陣どる。一般の participant や observer はこれに向かいあって坐る。運営は Discussion Leader にまず任された形だ。Discussion Leader は IUCN のアクティブなメンバーから選ばれる。なお、Session の前日に、壇上にならぶもの全員が、chairman の主催する打ち合わせ会で、十分に下準備をしているようだ。報告者は、ペーパーを読まず、5分間以内で要点をしゃべる。

Technical Session I は、International Biological Programme. Chairman はマレーシア大学の E. Balasingham 博士で、Graham 博士が Discussion Leader となる。Graham 博士が1967年から5~7カ年計画で行なわれる IBP の説明をする。京大東南アジア研究センターの第2次5カ年計画の生物学研究はIBPと密接な関係のもとに行なわれるであろうから、わたくしは、まったくの専門外であるが、興味深く、このセッションに出席した。IBP がとりあげるのは、(1) 基礎的な生物学的生産性 (とくに、bio-dynamic natural system の問題)、(2) 生産性の生理学的側面、(3) 自然保護と生産性との関係、(4) 淡水生物、(5) 海洋生物、(6) 極限条件への人類の適応、(7) 生物資源の利用と管理であるという。

各報告者から、IBP にたいする東南アジア諸国の態度や準備状況が述べられたが、どれもが大賛成だという。しかし、IBP 委員会が設置され、このプログラムに積極的にとりくんでいるのは、フィリピンだけである。質疑応答のなかで、カセツアート大学の Sanga 博士が、「IBP についてポーランドから連絡があるが、タイとしては困る、われわれは従来から共同研究をし

ている京都大学の四手井教授(農)といっしょにタイでの IBP をやりたい」との発言があった。このセッションのために、各国からの参加者にとって IBP の理解がよくなったようだ。これで東南アジア各国間の IBP の共同研究への一歩がふみだされたとみてよい。この IBP において、各国ができるだけ同一の生物を研究対象としたらどうかという意見が強かった。

このセッションに提出されたペーパーは、これまでの東南アジア諸国の IBP への関心の低さのために、わずかつぎの3つにかぎられている。

S. M. Sendana, College of Agriculture, University of the Philippines, *The Philippine Biological Programme.*

Roald A. Peterson, FAO, Rome, *FAO Contribution to International Biological Programme.*

C. Soemarwoto, National Biological Institute, Bogor, Indonesia, *Scientific Development for the Ujung and Tjibodas Nature Reserves.*

第2日は **Technical Session II—Ecology** である。農業経済学の立場からは自然資源保護のための土地利用がひとつの問題なので、このセッションは、わたくしの専門的立場からも、おもしろかった。座長はボゴールのインドネシア生物学研究所長 Soemarwoto 博士。ecology というものの、12人の報告者は、それぞれ、土地分類調査・土地利用計画・水源林涵養・生産資源保護・鳥害とネズミの害対策・野獣保護など、千差万別の報告をした。わたくし自身、マラヤの土地利用調査と土地利用計画のすすんでいるのには感嘆した。南ベトナムからも同じように報告があったが、この戦乱のまっただなか、机上の空論のように思われて仕方がなかった。自然保護の会議であるにかかわらず、農作物におよぼす野鳥の害、またネズミの害が強く指摘されたが、これは、わたくしのタイやカンボジアでの観察からしても、十分にうなずける。セッションをつうじて、東南アジアの生物の生態についての知識の不十分、したがって、その研究——それも東南アジア諸国

間での共同研究——の必要が痛感された。

提出されたペーパーは、

Robert Knox Dentan, Department of Anthropology and Sociology, Ohio State University, *Some Problems in Determining the Conservation Needs of the Hill People of Southeast Asia.*

Tom Gill, International Society of Tropical Foresters, Inc., Washington, D. C., *Mis-Use of Land in Southeast Asia.*

G. R. Conway, Agricultural Research Centre, Sabah, *Crop Pest Control and Resource Conservation in Tropical South East Asia.*

J. L. Harrison, Department of Zoology, University of Singapore, *The Effect of Forest Clearance on Small Animals.*

R. Devred, Agricultural Research Organization, Rural Institutions and Services Division, FAO, *Conservation of Nature and Agricultural Development, Co-ordination and Integration of Research*

Dominador Z. Rosell, National Science Development Board, Manila, *Water Pollution—A Conservation Problem in the Philippines.*

William P. Panton, Economic Planning Unit, Prime Minister's Department, Kuala Lumpur, *Land Capability Classification in the States of Malaya, Malaysia.*

Macid Y. Gülcur, U. N. Special Fund, Forest, Forest Range and Watershed Management in the Philippines, *Critical Importance of Research as a Basis for Management of Natural Resources in Tropical South East Asia.*

Nguyen-Van-Hiep and Nguyen-Dinh Mo, Directorate of Forest Affairs, South Vietnam, *A Part-Time Job for Spare Money: Raising Deer in Vietnam.*

Macid Y. Gülcur, *Renewable Natural Resources and their Problems in the Philippines.*

J. A. Tubb, FAO Regional Office, Bangkok, *A Consideration of the Fisheries Problems of the Lower Mekong Basin.*

Frank G. Nicholls, Applied Scientific Research Corporation of Thailand, *Proposed Inventory of*

Natural Resources in Thailand.

W. Meijer, Forest Department, Sabah, *A Botanist's View on the Use of Arboricides in Forestry in Sabah.*

Vu-Ngoc-Tan, Parc-Zoo-Botanique, Saigon, *L'Élevage des Cervides, une Ressource Intéressante pour les Pays en Voie de Développement du Sud-Est Asiatique.*

Udhai Chanphaka, Royal Forest Department, Thailand, *The Royal Forest Department Programme for Watershed Management and its Problem.*

W. B. Hitchcock, Commonwealth Scientific and Industrial Research Organization, Canberra, *Wildlife Resources in New Guinea.*

Thai Cong Tung, Agricultural Research, Saigon, *Land Capability Classification in South Vietnam.*

Philip A. Daley, Forest Service, Agriculture and Fisheries Department, Hong Kong, *Conservation and Public Administration, The Need for Co-operative Planning.*

Sanga Sabhasri, Kasetsart University, Bangkok, *Preliminary Watershed Management Research in Northern Thailand.*

第3日は、**Technical Session III—Education and Training.** 座長はタイ国の自然保護の代表的な役割をしている Boonsong Lekegul 博士 (Secretary General, The Association for the Conservation of Wildlife in Thailand; Member, IUCN Executive Board)。学校教育、保護のための訓練、社会教育の3問題にわけて、セッションがすすめられた。とくに、滅亡してゆく生物に、とくべつの注意が払われるよう、学校・社会の両側面にわたっての教育が強調された。提出されたペーパーはつぎのとおり。

自然保護のための社会教育について、

George C. Ruhle, National Park Service, U. S. Department of Interior, *The Contribution of Interpretive Programs in National Parks to Popular Conservation Programs.*

E. J. H. Berwick, Department of Agriculture, Sabah, *Education and Publicity for Resource Conservation in Sabah.*

- Wong Yew Kwan, Malayan Nature Society, Kuala Lumpur, *Contribution of the Nature Society to Public Conservation Education.*
- R. S. R. Fitter, The Fauna Preservation Society, London, *Some Notes on Campaigns and Propaganda on Behalf of Conservation.*
- J. Goudswaad, Rotterdam, *Elements of an Effective Nationwide Conservation Education Programme.*
- J. L. Harrison, *The Time Lag in Teaching Biology.*
- Phung Trung-Ngan, Faculty of Science, University of Saigon, *Project of Introducing the Idea of Conservation in Vietnamese Schools.*
- Francis Ratcliffe, The Australian Conservation Foundation, Canberra, *The Australian Conservation Foundation.*
- Dolores F. Hernandez, Science Teaching Center, University of the Philippines, *Conservation Education in Curriculum Improvement Projects in the Philippines.*
- C. W. Chang, FAO Regional Office, Bangkok, *The Role of Agricultural Extension in Conservation Education.*
- Richard Gordon Miller, Carson City, Nevada, *What is the Status of World Conservation Education?*
- Chamnian Sa-Nguanpuag, Department of Education, Bangkok, *Report on Conservation Education and Training in Thailand.*
- I. Mado Taman, Forest Service, Bogor, *The Role of Zoological Gardens in Creating Public Awareness of Wildlife Conservation.*
- 自然保護専門家の養成について,
- Robert L. Rudd, Department of Zoology, University of California, Davis, Calif., *Training Asian Students in Resource Management.*
- Mohamad Khan, Game Department, State of Perak, Malaysia, *Specialist Wildlife Training from the Standpoint of an Asian Trainee.*
- Raymond F. Dasmann, Humboldt State College, Arcata, Calif., *Education and Goals in Wildlife Conservation.*
- G. S. de Silva, Game Department, Sandakan, Sabah, *Conservation Training Needs in Tropical South East Asia.*
- Edilberto Z. Cajucom, College of Forestry, University of the Philippines, *Conservation Training in Parks and Recreation Management in the Philippines.*
- E. A. Quist-Arcton, Forestry and Forest Products Division, FAO, *Middle Grade Conservation Training in Africa.*
- Vallobh Naraballobh, Kasetsart University, *Training for Effective Careers in Conservation in Thailand.*
- 第4日は Technical Session IV—Threatened Species.** 座長にフィリピン・シリマン大学 D. S. Rabor 教授。IUCN はこの絶滅の危険にある生物の保護に、とくに力をそそいできている。東南アジアにおいても、野獣や鳥でもまさに絶滅にひんしているものが多数あるので、とりあえず、これのリスト作成をすることの急務が、やかましくいわれた。マラヤでこの問題の研究がすすんでいるのは、おどろくべきだ。その反面、その他の諸国では、最近やっと関心がもたれるようになったとの感じである。
- Eric R. Alfred, National Museum, Singapore, *Rare and Endangered Fresh-Water Fishes of Malaya and Singapore.*
- E. P. Gee, Assam, *Threatened Species of Large Mammals in Tropical Southeast Asia, and the Importance of Sanctuaries (including National Parks and Reserves) in their Conservation.*
- H. Elliott McClure, Armed Forces Institute of Pathology, Washington, D. C., *Some Problems concerning Endangered Birds in Southeast Asia.*
- Werner T. Schaurte, Louvenberg-Neuss, West Germany, *Threatened Species of Rhinoceros in Tropical S. E. Asia.*
- B. Balasingam, Department of Zoology, University of Malaya, *Turtle Conservation in Malaya.*
- J. A. Hislop, Singapore, *Rhinoceros and Seladang, Malaya's Vanishing Species.*
- Anne Johnson, Department of Botany, University of Singapore, *Rare Plants and the Community in South East Asia.*

- Tem Smitinand, Royal Forest Department, Bangkok, *Some Rare and Vanishing Plants of Thailand*.
- Chote Suvatti, Kasetsart University and Deb Venasveta, Department of Fisheries, Bangkok, *Threatened Species of Thailand's Aquatic Fauna and Preservation Problems*.
- Chew Wee-Lek, Botanic Gardens, Singapore, *Conservation of Habitats*.
- Godofredo L. Alcasid, Philippine National Museum, Manila, *Catching Birds with Light*.
- Frank G. Nicholls, *Regulation and Coordination of Collections of Flora and Fauna*.
- G. S. de Silva, *The East Coast Experiment*.
- Dioscoro S. Rabor, Silliman University, Duamaguete City, Philippines, *Threatened Species of Small Mammals in Tropical South East Asia, The Problems in the Philippines*
- Dioscoro S. Rabor, *The Present Status of the Monkey-Eating Eagle, Pithecopaga Jefferyi Orilvie-Grant, of the Philippines*.
- Boonsong Lekagul, The Association for the Conservation of Wildlife, Bangkok, *Threatened Species of Fauna of Thailand*.
- S. Somadikarta, Museum Zoologium Bogoriense, Bogor, *Sea Turtles in Indonesia*.
- S. Dillon Reply, Smithsonian Institution, *The Position of the International Trade in Wild Birds as a Factor Effecting Threatened Species of Birds in Tropical Southeast Asia*.
- Barbara Harrison, Sarawak Museum, Sarawak, *Conservation Needs of the Orang-Utan*.
- 提出されたペーパーをあげる。
- Jean-Paul Harroy, International Commission on National Parks of IUCN, *United Nations World List of National Parks and Equivalent Reserves*.
- Myron Sutton, National Park Service, U. S. Department of the Interior, Washington, D. C., *The Contribution of National Parks to National Recreation*.
- Marion Clawson, Resources for the Future, Washington, D. C., *Park Systems Planning*.
- A. Rahman Ali, Forest Department, States of Negri Sembilan and Malacca, Malaysia and Wong Yew Kwan, Forest Research Institute, Kepong, Selangor, Malaysia, *The Virgin Jungle Reserve Project of the Malayan Forest Department*.
- Peter S. Ashton, Forest Department, Kuching, Sarawak, *Notes on Park Development and Public Education in Bako National Park, Sarawak*.
- J. A. R. Anderson, Forest Department, Kuching, Sarawak, *Criteria for the Selection of Areas for National Parks in Sarawak*.
- Gerardo Budowski, Inter-American Institute of Agricultural Science, OAS, Turrialba, Costa Rica, *Protection and Management of Natural Areas in Latin America, Implications for Southeast Asia*.
- Ho Coy-Choke, Genetics Department, Australian National University, Canberra and M. E. D. Poore, Commonwealth Forestry Institute, Oxford, *The Value of the Mount Kinabalu National Park, Malaysia, to Plant Ecology*.
- Phairot Suvanakorn, Royal Forest Department, Bangkok, *A Guide to Khao Yai National Park*.
- F. R. Foberg, National Research Council, Washington, D. C., *Scientific Needs for Parks and Reserves*.
- P. M. Marshall and A. T. Marshall, Department of Zoology, University of Hong Kong, *Conservation in Hong Kong*.
- Hasan Basjarudin, Forest Service, Bogor, *Problems of National Parks and Reserves in Indonesia and Emerging Countries*.

最後の **Technical Session V—National Parks** が第 5 日に開かれる。座長はタイの Dusit 森林局長。もともと東南アジアにおいて、ちゃんとした国立公園をもつのはマレーシアだけである。タイにも、Khao Yai 国立公園があるが、設備は、まだまだこれからといったところだ。このセッションでは、公園と保護区との定義、東南アジアにおける国立公園と保護区とのリスト作成の必要、諸国での国立公園のもつ意義の相違、国立公園の PR の方法、国立公園と経済発展との関係などが、問題とされた。

Lord Medway, Department of Zoology, University of Malaya, *Research in Relation to National Parks and Nature Reserves.*

J. B. Alvarez, Jr., Parks and Wildlife Office, Manila, *The National Parks; Its Concept, Standards and Practices.*

Dusit Baniapatana, Royal Forest Department, Bangkok, *Wildlife Conservation in Thailand.*

なお、General Background Papersとして、つぎのものが提出された。

Paul Wycherley, Rubber Research Institute of Malaya, Kuala Lumpur, *Conservation of Limestone Hills in Malaya.*

Nguyen-Van-Hiep and Nguyen-Dinh Mo, *The Real Situation of the Conservation in Viet-Nam in 1965.*

G. S. de Silva, *Wild Life Conservation in the State of Sabah.*

Pham-Hoang-Ho, Faculty of Science, University of Saigon, *Plan for the Conservation of Nature in Vietnam.*

A. Rahman Ali, *Forest Conservation in Malaya.*

この会議期間の午後や夜を利用して、**UNESCO Regional Working Group on the Conservation of Nature and Natural Resources in Tropical Southeast Asia**の会議が、UNESCO Regional Centre for Science and Technology for Southeast Asiaによって主催された。わたくしは、そのGroupに属さないので出席しなかった。

最終の第6日は閉会式で、Coolidge博士が座長となる。

まず、各セッションの座長が討議点を報告、つづいて、Talbot, Graham, DarlingのIUCNのアクティブなメンバーが、これからの展望を述べ、決議にうつる。この決議は、東南アジアの自然保護にかんする問題点と対策とを明らかにしているのので、全決議項目をここに紹介しておこう。

(I) 組織・管理・運営についての決議

- (1) 東南アジア地域の自然保護のための組織を設けることを、関係政府・機関に勧告する。

- (2) 各国に、自然資源保護団体の組織、研究施設の設立、研究のための主要環境形態の適切なサンプルの保存、土地利用計画の樹立を勧告する。

- (3) 自然保護立法の調整のため、各国の立法例を収集、かつモデル立法を作成することを、国際機関に勧告する。

- (4) Mekong 開発参加諸国にたいし、自然と生物生態の保護に十分な注意を喚起する。

- (5) 農業使用についての、自然保護の立場からの制限を各国政府に勧告する。

(II) 研究および教育についての決議

- (6) 本地域の生物学者が International Biological Program に積極的に参加することを希望する。

- (7) UNESCO Regional Working Group on Conservation of Nature and Natural Resources in Tropical South East Asia の継続と強化とを支持する。

- (8) インドネシアの International Biological Program は、スマトラの Loser Reserve のような生物学的にきわめて興味ある地域を含み、またあらゆる可能な援助をうけるべきことを勧告する。

- (9) タイが International Biological Program の一環として、Smithsonian Institution との連絡のもとに、Institute of Environmental Sciences を設立することを支持する。

- (10) 自然保護専門家に自然資源関係の政府諸機関に密接に協力することを勧告する。

- (11) 各国政府が初等・中等教育のカリキュラムのなかに自然保護をとり入れることを含んでの、自然保護についての教育を発展することを勧告する。

- (12) 自然保護教育のための教材の供給を関係国際機関に勧告する。

- (13) 海外援助計画に自然保護の短期訓練計画がとりいれられることを勧告する。

(III) 絶滅にひんしている生物の保護にかんする決議

- (14) 各国政府が絶滅にひんしている生物の保護手段をすみやかにとることを勧告する。

- (15) オランウータンの生息する国に、その生態の研究を実施することを勧告する。

- (16) フィリピン政府に、Monkey-eating Eagle の保存をはかることを勧告する。

- (17) フィリピン政府に、Tamaran (ミンドロ島産小

- 水牛)の保存の施策を勧告する。
- (18) UNESCO と FAO に、タイ・カンボジア・ラオス政府協力のもとでの、オオナマズの *Pangastus Sanitwongse* と *Pangasianodon Gigas* の研究を勧告する。
- (19) 各国にウミガメの研究を勧告する。
- (20) 東南アジアですでに使用をみる Field Immobilization Techniques の今後の使用について十分な注意をはらうことを警告する。
- (21) 各国政府に、捕獲された絶滅にひんする生物の繁殖に十分な注意を払うことを警告する。
- (IV) 国立公園および生息保護区にかんする決議
- (22) 各国政府に、永久的法律基礎にもとづく国立公園制度をたてることを勧告する。
- (23) サバの Ulu Segama にオランウータン保護区をもうけることを勧告する。
- (24) マレーシア政府に、Sungar Dusan 保護区をスマトラ一角サイのために使用することを勧告する。
- (25) マレーシア政府に国立公園と保護区との両政策の調整を勧告する。
- (26) フィリピン政府にタール湖の国立公園指定を勧告する。
- (27) インドネシア政府にジャワ一角サイのための Udjong Kulong 保護区の施設継続拡充を勧告する。
- (28) 各国政府に道路・鉄道・送電線建設のさい国立公園との関連に留意することを勧告する。
- (29) サラワクに、Gunong Muln 国立公園指定を勧告する。
- (30) ホンコン総督府に国立公園設置を勧告する。

3

この会議に参加して、教えられたことは、いろいろとあった。しかし、そのうち、とくに強く感ぜられた諸点をあげたい。

第1は、自然保護について、東南アジアできわめて強い関心がいだかれるようになったことだ。もちろ

ん、この点については、マラヤ・サバ・サラワク・シンガポールなどの旧英領植民地が一步ぬきこんでいるが、その他の諸国も、程度の差こそあれ、なんらかの方策を講じようとしている。問題が多種多様であり、なかなか容易ならぬ事業であることは、まちがいない。

京大東南アジア研究センターとして、生物関係のプロジェクトをたて、これをすすめてゆくにあたって、これら自然保護関係者と密接な連絡をとることが自他ともに有利ではなかろうか。わたくしは、ヘーパーをのこらず列挙し、かつ執筆者の所属をもつけ加えたのは、生物部門のこんごのプロジェクトの参考に供したかったわけである。決議項目をあげたのも、また同じ意味である。東南アジア諸国にどんな専門家がおり、どんな問題を取りあげているかを知るために、このヘーパーは教えることが多いであろう。

第2。これだけの重要な会議であるにかかわらず、日本からは但馬のコオノトリ捕獲に成功された山階鳥類研究所員吉井正氏とわたくしが出席しただけだった。わたくしは liaison officer のようなものだから、正館には鳥類専門家が1人参加しただけだといってよい。東南アジア開発協力がわが国のひとつの課題である今日、この会議にかぎらず、東南アジア関係の国際会議には、かならず積極的にどしどし専門家を送るべきではなかろうか。

第3。会議の運営がすばらしく上手であった。わたくしは、IUCN のこうした能力を高く評価する。それ以上に会議の前後はもちろん会議期間の午後を利用してのエクスカーション、あるいは夜のレセプション、ヘーパーの作成、出席者にたいする送迎ならびに宿舍の世話、こういう仕事を全部たくみにやってのけたタイ組織委員会、とりわけ国家研究会議の能力・努力にたいして、心から敬意を表したいと思う。まことに、みごとなものだったとの一言につきる。本報告においても、わたくしは、NRCの副事務総長 Pradisth Cheosakul 博士、また実務担当の Praphaiphitt Donavanik 夫人の2人の名前をとくにあげておかずにはおられない。